

平成 22 年度 グループ対抗



里山デジカメ選手権

も り

身近な森林の再発見!! 入選作品集



最優秀賞（林野庁長官賞）作品【里山物語】



琵琶湖博物館長賞作品【「新・里山」のいのち】

主 催  近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

共 催 滋賀県立琵琶湖博物館 / (財)水と緑の惑星保全機構・里地ネットワーク

協 賛 (株)ニコン

後 援 朝日新聞大阪本社 /  大津放送局 / (財)森林文化協会 / 毎日新聞大阪本社



局 長 挨拶

近畿中国森林管理局長
本 村 裕 三



本日は、「グループ対抗里山デジカメ選手権」の最終公開審査を行うこととしましたところ、多くの皆様方においでいただき誠にありがとうございます。また、最終審査に残られ本日この会場にお越しいただきました皆様には、発表の準備をしていただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

また、ご多忙の中、審査員をお引き受けいただいた今森先生、只木先生、青山先生にもお礼を申し上げます。

さて、私ども近畿中国森林管理局は、東は石川県から西は山口県まで、2府12県の国有林を管理経営する林野庁の出先機関です。

この滋賀県内では、琵琶湖周辺にも国有林が点在しており、これらの大部分が里山で、その保全と整備は重要な課題となっています。

里山は、かつて、薪炭材の伐採や落葉の採取等を通じて、地域住民の日常生活の中で継続的に利用されることで維持管理されてきました。しかし、昭和30年代の「燃料革命」により家庭での燃料が木質燃料から化石燃料に代わり、また、化学肥料の普及に伴い落葉堆肥の消費が減少することなどにより、里山における木質資源が薪炭や肥料として利用されることが少なくなりました。この結果、人々と里山との関わり合いが薄れていき、里山の多くが利用されずに放置されるようになったことは、ご案内のとおりです。

一方、近年、地球温暖化の防止や生物多様性の保全等の観点から、里山の価値が再認識されるようになりました。特に、人と森林との豊かな関係を回復・創出する場としての里山に対する期待から、身近な森林づくり活動や森林環境教育、健康づくりの場として見直され、地域住民、森林ボランティア、教育関係者など、多様な主体の連携による保全や利用のための活動が活発化してきています。先般、名古屋で開催された生物多様性条約・COP10において、これまで取り組まれてきた「里山イニシアチブ」を推進するため、「国際パートナーシップ」が発足されたのも、このような動きが背景にあります。

このような中で、近畿中国森林管理局では、地域住民、NPO等が行う自主的な森林づくり活動を支援するため、国有林をその活動の場として提供する「ふれあいの森」や、学校等による体験活動・学習活動の場を提供する「遊々の森」の設定など、森林の多様な利用及びそれらに対応した整備に取り組んでいます。

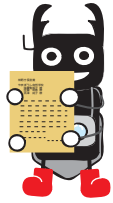
特に、里山については、自然再生や生物多様性の保全等に取り組むNPO、森林環境教育に携わる教育関係者等への支援活動を行うことを目的として設置した、「箕面森林環境保全ふれあいセンター」が主体となって、生物多様性の保全に配慮しながら、地域住民、森林ボランティア、関係行政機関、有識者とともに、里山の整備やその利用を進める取組みを推進しています。

「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、「箕面森林環境保全ふれあいセンター」の取組みとして、昨年度に引き続き、里山の再生・整備と森林環境教育に重点を置いて実施することとし、先日一次審査を行い30グループを選抜いたしました。

荒廃した里山の現状を回復していくのは非常に大変なことです。まずは、人々が里山に関心を持つこと、何らかの新たな視点で里山を見ていくことが重要です。このような意味で、デジカメという最新の技術でできた器具を通じて、国民の皆様が里山について関心を持っていただき、何らかのつながりを持っていただくことは、誠に意義あることだと思います。

これから審査対象の30グループの代表の方に、作品の説明やその思いなどを発表していただきます。発表者の熱い思いを今日御出席の皆さんとともに分かち合うことができれば大変うれしく思います。

最後になりますが、今回の「グループ対抗里山デジカメ選手権」をきっかけとして、国民の皆様が里山についての関心が更に高まり、人間と自然との共生できる「くにづくり」が進むよう祈念いたしまして、私の挨拶と致します。



平成 22 年度
「グループ対抗 里山デジカメ選手権」入選作品一覧表

賞	タイトル	グループ名	部門	メンバー氏名	所在地
最優秀賞 (林野庁長官賞)	里山物語	親子チーム	一般	前田 和彦 前田 陽子 阿部 佳世	大阪府 富田林市
琵琶湖博物館長賞	「新・里山」のいのち	積水ハウス株式会社 環境推進部	一般	延原 裕美 木戸 一成	大阪府 大阪市
優秀賞 (近畿中国 森林管理局長賞)	里山 ^{かかし} の案山子	家族	一般	榊井 亨 榊井 百合子	奈良県 橿原市
	里山の星しずく	新見市唐松 ホテル同好会		美和 哲也 宮長 正雄 笹田 寛一	岡山県 新見市
	理想の森の なかまたち	理想の森プロジェクト	森林・ 林業	前田 純二 金澤 瑛 淵上 佑樹	京都府 京都市
	よみがえる 茅葺き民家	滋賀県立大学 ^{おおりらくぎ} 男鬼楽座	活動	翠 勇樹 田辺 京子 草野 有美	滋賀県 彦根市
	虫たちと生きる	京都大原学院	学校	尾崎 明日香 山本 莉帆	京都府 京都市
	モンスター出現！！	長野県木曽郡木祖村 木祖中学校3学年 (平成20年度)		小林 晴菜 牛丸 京香 柳川 浩司	長野県 木曽郡 木祖村
	小さいいのち	広島県立 庄原格致高等学校 写真部C		城戸口 莉菜 石田 香織	広島県 庄原市
審査員特別賞	^{ひわだ} 檜皮採取養成研修	公益社団法人 全国社寺等屋根工事 技術保存会	森林・ 林業 活動	田中 敬二 友井 辰哉 大野 浩二	京都府 京都市

審査員総評

青山 佳世 氏（フリーアナウンサー）



今年は美しい作品とか活動がよく分かる作品がありましたが、もっと『生活感』というか、『地元の人と森との関わり』とか『里山』とか『生活』などの暮らしの部分を撮った作品が少なかったことが少し残念だったと思います。

また、3枚とも同じような角度から撮っているものが結構見受けられました。例えば、昆虫なら昆虫ばかり、花なら花ばかり、クローズアップしたものならクローズアップしたものばかり3枚並んでいるものがありました。もう少し角度を変えて違うプレゼンテーションをしていただくと得点が上がったものが何作品もありましたので、次回に挑戦していただく時にはそういったところを注意して写真を3枚撮っていただくといいと感じました。

次に、フリーアナウンサーという立場からプレゼンテーションについて一言感想を申し上げたいと思います。非常に良い作品があって、本当に良いことを言っているのにプレゼンテーションの仕方では評価が下がってしまった方が何人かおられました。どのように自分の思いなど言いたいことを伝えるかというのは特に重要なことです。何も綺麗な言葉で言わなくてもいいのです。訛りや方言があってもいいのです。まずはみんなの顔を見て話すこと、顔はまっすぐ前を向くこと、そして原稿は見てもいいけれど、それをただ読むのではなくて、自分の思いと自分の言葉で語ってください。そうすると、皆さんの思いが聞いているみんなによく伝わるのではないかと思います。

只木 良也 氏（農学博士）



今日はいろいろな作品を見せてもらいました。それぞれに感心いただきましたが、いわゆる『里山』というものの生活の匂いが消えてる。消えてると言うのは失礼ですが非常に少ない。これは時代の流れでしょうがないのかと思うのですが、『里山』はもう少し生活と密着したものであったはずなので、そういう匂いのある里山というものを作品に出してきて欲しいなあというのが一つです。

それからもう一つ、私は森林とか木とかいうものの専門家ですから今年の作品を見て、木自体、里山の森自体、これを扱ったものが意外に少なかったというのが寂しくてしょうがないです。確かに虫も結構ですし鳥も結構です。そういうものは整備された森があってこそ生きられる連中なのです。だから、立派な里山の象徴として虫がいる、ヘビがいる、そしてカエルがいる、そういうのはいいのですが、そればかりでは困ります。そのバックとして象徴ばかりではなくて本来の『森林』というものが、こんな立派な森林だから虫もいるのだよというようなストーリーにして欲しいと感じました。私は木と森のサイドの人間なので余計そのように感じたのかも知れませんが、それが私の感想です。

今森 光彦 氏（写真家）



まとめを兼ねて審査のコメントをさせていただきます。

昨年は美しい森林の中の風景等があったのですが、今回は全体的に少ない気がします。そして生活感があるのも少なかったでしょうか。しかし、それ以外に関してはすごく力作があって予想以上に楽しく審査をさせていただきました。

私は年間を通してあちこちで写真の審査をするのですが、このデジカメ選手権は単に技術だけでなく、「メッセージ」もしっかり見ながら審査するということが決定的に他の写真の審査と違うところです。技術だけでなく、内容面での審査がありますから、皆さんがここで発表されたメッセージが大きく審査に影響するという気がします。先ほどみんなの顔を見て話すという話がありましたが、メッセージなので人に伝えようとする心ってすごく大事です。写真がまずくてもそれがよい場合には、「あーっ、そうなのか」というのがあるのです。そこがすごく怖いところでもあり、このコンテストの面白いところでもある気がします。

また、この3枚組写真というのは非常に難しいのです。3枚ってというのは、五七五の俳句ではありませんが、そぎ落とす作業が必要なのです。そぎ落とし、そぎ落としで要点を掻い摘んで自分は何を言いたいかということをはっきりとさせた写真が得をする、人目を引くのです。その点を考えていただくと、それは技術に勝ります。

それから、今回も昆虫の写真が多くありました。花もいいですし、植物も面白いテーマです。野鳥などの野生動物も面白いですし、そういったものも是非撮っていただきたいと思います。今回、里山の『生活感』がどんどん無くなってきたということですが、撮影対象となる現場は『生活』としての場所ではなくて『ボランティア』で活動する場所となっている場合が多いのです。自然環境が悪くなったからボランティアとして防ぐ活動を行っているということでしょう。そこで、お米を取ったり何か生活に関わることを営んでいるということとの接点を、写真に表現をしていただけると里山という点で然る評価に値すると思います。

本年は全体的にはすごくメッセージが伝わってきました。これは初回から私が審査をさせていただいて、年々活動されて気運が高まっている、応募される方の意識が高まっているということを実感しますので、今後ともデジカメ選手権に是非応募していただきたいと思います。どうもありがとうございました。



◎ 最優秀賞（林野庁長官賞）【一般部門】

①



②



③



「里山物語」

親子チーム（大阪府富田林市）

前 田 和 彦

前 田 陽 子

阿 部 佳 世

<メッセージ>

千葉に住んでいる男孫2人は大の鉄道マニアで部屋中新幹線をはじめ電車の玩具がいっぱいです。もちろん電車に乗ることも大好きであり、駅名もかなり覚えています。

休日に、いずみ鉄道（旧国鉄線を3セクで営業）に乗車を目的に出発、大多喜駅に全員を降りし私は撮り鉄に変身。

国道高架橋上でカメラマン4名発見、いずみ鉄道のナイスポイントでした。そこで菜の花の中を走る電車を撮影したものです。もちろん孫は最前部に乗車しているのが見えました。

私の家の近くに、日本棚田百選の一つ「千早赤阪の千枚田」があります。近くの田あぜで曼珠沙華が咲き出したので、カメラを片手に家内と出かけました。イネが黄金色に実り、かかしがスズメから守る用心棒として滑稽な姿で立っていました。また、曼珠沙華も今が花盛りで千枚田の岸をきれいに飾っていました。

撮影場所：①千葉県夷隅郡大多喜町

②、③大阪府南河内郡

千早赤阪村

<講評>

黄金色の棚田、ヒガンバナとかかし。それにナノハナにつつまれた駅にやってきた黄色い電車。なんともバラエティーある季節のとりあわせですが、里山ののどかさが伝わってきます。黄色の絵柄でまとめたのもよかったと思います。明るいイメージには未来も感じます。

（今森 光彦氏）

カメラ：N i k o n D 5 0

◎ 琵琶湖博物館長賞【一般部門】

①



②



③



「『新・里山』のいのち」
積水ハウス株式会社 環境推進部
(大阪府大阪市)
延 原 裕 美
木 戸 一 成

<メッセージ>

都会の真ん中、大阪梅田「新梅田シティ」内にある「新・里山」にて撮影しました。ここは、地域の自生種、在来種を中心に日本の原風景を再現しています。田んぼや畑もあり、四季折々の表情を見せてくれます。2006年夏にオープンして以来、4年が経ち、渡り鳥の羽を休める場所となり、モズが毎年繁殖し、近隣の方々、私たちオフィスワーカーも含め、たくさんの生き物たちが集まる里山となりました。

私自身も4年間写真を撮り続けていて、どれも自然の偉大さや、すばらしさを教わります。今回の応募にあたり、今までの写真の中でいのちというメッセージとしてお伝えするのに、迷いに迷いましたが、この3枚の写真を選びました。

1番の写真は、もうすぐ近くの小学生達による稲刈りが始まる頃、「お先に失礼」といいながら、すずめが美味しそうに、必死でふんばって稲を口いっぱい頬張っています。すずめも「新・里山」の住民のひとりで、訪れる人々をいつもやさしく迎えてくれます。

2番はアジアイトトンボの交尾です。ここは、さまざまな生き物が恋をしにやってきます。そして、いのちが誕生しています。この時期、鳥や蝶、昆虫など、たくさんの生き物が仲良くしているのが見られます。自然に笑顔になる一瞬です。

3番はアオメアブがドウガネブイブイをとらえている姿で、「よいしょ、よいしょ」「つかまえたぞー」と聞こえてきそうな小さな小さな真剣な戦いです。

いのちの誕生、食欲、恋、生きていくために私たち人や、生き物にとって大切なこと。そんな自然がたくさんつまった「新・里山」です。

撮影場所：大阪府大阪市
新梅田シティ内「新・里山」

カメラ：Panasonic LUMIX DMC-TZ3

<講評>

稲穂を食べるスズメ、コガネムシを襲うシオヤアブ。一瞬の生態をついた鋭い写真です。しかし、これらがすべて大都会で撮影されていることにたいへん意義があります。里山再生は可能だといつも思いますが、まさにそれを示してくれる優れた記録写真でもあります。

(今森 光彦氏)

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【一般部門】

①



②



③



かし
「里山の案山子」
家族（奈良県橿原市）
榊 井 亨
榊 井 百合子

<メッセージ>

私の住んでいるところは明日香に近く、朝の散歩コースとして高松塚古墳、キトラ古墳、石舞台とその日によってコースを変え毎日一万歩を目指して歩いています。始めたのが平成19年からでもなく丸4年になりますが、朝の新鮮な空気を吸っての明日香路は自然が一杯で、まさに日本の里山と言ったところです。

写真①

今年も「第15回明日香神奈備かしコンテスト」が開催されていることを知り、明日香村稲渕の棚田案山子ロードに行きました。今年のテーマは「ふれあい」で、77体の案山子が黄金色に波打つ棚田を通る案山子ロードに展示されていました。今年のジャンボ案山子は、平城遷都1300年祭のマスコットキャラクター「せんとくん」で棚田に立って威風堂々と見渡していました。

写真②

棚田をバックに農作業姿の棚田夫婦の善夫さん、好子さんの手を取り合っの姿が印象的でしたが、残念ながら賞には入りませんでした。

写真③

里山をバックにした4人家族での「親子でふれあいクッキング」は親子でのふれあいを象徴する姿で最優秀賞に輝いた作品です。

明日香は四季折々すばらしい風景を観賞することが出来るところです。皆様も是非足を運んでください。

撮影場所：奈良県高市郡明日香村

<講評>

田んぼに立っているのは、人かと思いきや、それらはすべてかし。腕を組む夫婦、お母さんと子ども、なんとほほえましかかしたちなのでしょう。撮影者の優しさと遊び心が伝わってきます。組写真としてのまとめ方もたいへんよかったと思います。

（今森 光彦氏）

カメラ：Nikon D60

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【一般部門】

①



②



③



「里山の星しずく」
新見市唐松ホタル同好会
(岡山県新見市)
美 和 哲 也
宮 長 正 雄
笹 田 寛 一

<メッセージ>

ここ数年夏になると夜ごとにはかないホタルの光を追っかけて来しました。

源氏蛍も寒い夏には飛ばないで地面をはって交尾している姿を見つけたり、交尾、産卵、孵化も観察。幼虫が雨の夜に水中から上陸する姿も観察。

ヒメボタルも近くの山で見つけ毎年観察するようになり、その後岡山県下いたる所に住んでいることも知りました。

岡山市で5月末に発生、県北の新見、蒜山～大山では8月始めまで観察できることも分かってきました。県南の、夜中に発光するタイプに比べ私たちの周りの姫蛍は20時～21時しか光らず寒い日は30分くらいで光るのを止めてしまうこともあります。新しい生息地を見つけるのはなかなか大変です。

幼虫もトラップで捕獲に成功、観察することが出来ました。源氏蛍の発光は夕暮れから夜明け前まで光ることも話には聞いていたが今年やっと確認できました。

暑い最中を夢中で過ごす事が出来るのですが、眠い毎日が続きます。

撮影場所：①岡山県岡山市
②岡山県新見市
③岡山県高梁市

<講評>

闇の中に光る幻想的なホタルたち。その生態を、背景をつぶすことなくうまく写し出すことによって、たいへん魅力的な写真にしあげています。流れている光り、点滅する光り、地面をはう光り、それぞれの画面に変化があるので、組写真としてもよいでます。

(今森 光彦氏)

カメラ：①Canon EOS 5D
②Canon EOS 30D
③Canon EOS 20D

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【森林・林業活動部門】

①



②



③



「理想の森のなかまたち」
理想の森プロジェクト

（京都府京都市）

前 田 純 二

金 澤 瑛

瀧 上 佑 樹

<メッセージ>

私たち「理想の森プロジェクト」は京都を流れる鴨川の源流部、京都市北区雲ヶ畑地域で森づくりを行っています。春には広葉樹の植林、夏には下草刈り、秋には人工林の間伐や間伐材での小屋づくり、ドングリ拾い、冬には炭焼きや次の春の植林のための地ごしらえと、年間を通じて活動をしています。

メンバーはご指導をお願いしている山主さんをはじめ、学生、環境NGOの人、材木屋さん、家具職人さん、大工さん、普段は関係ない仕事をしてるけど森が好きな人、森が好きで家族で参加してくれる人達などとてもバラエティー豊かです。立場は色々ですが、みんな森で過ごす時間が好きで参加してくれています。

「理想の森」とずいぶん看板を揚げた活動ですが、活動するメンバーが具体的に、理想的な森林のイメージを持っているわけではありません。むしろそれがわからないもの同士がいっしょに汗をかきながら活動をし、ご飯を食べながら「理想の森ってなんだろう」と意見を交わし、イメージを少しずつ共有できる場所として、この森と森づくり活動があるのだと思っています。

撮影場所：京都市北区雲ヶ畑

<講評>

杉林の中から丸太に乗って滑り降りてくる笑顔の人たち。この一枚の写真から、森に関わる喜びが伝わってきます。カマキリは交尾をしているのでしょうか、クローズアップで撮ってくれました。切り株のドングリたちは、背景をぼかして撮影。これからもつづけてください。

（今森 光彦氏）

カメラ：Canon EOS Kiss Digital

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【森林・林業活動部門】

①



②



③



「よみがえる茅葺き民家」

滋賀県立大学 ^{おおりのくざ} 男鬼楽座

（滋賀県彦根市）

翠 勇 樹

田 辺 京 子

草 野 有 美

<メッセージ>

男鬼（おおり）は滋賀県彦根市の東の端、多賀町との境にある山間集落です。昭和30年後半から離村が始まり、昭和46年には、最後の居住者が離村してしまいました。その後、彦根市の小学校が学習施設として利用したり、家の所有者が定期的に家や畑の手入れを行っていたりしたことによって、男鬼の集落の景観は奇跡的に保たれてきました。しかし、彦根市が男鬼での活動から完全に撤退したことや、所有者の高齢化に伴い徐々に荒廃が進んでいます。

そこで男鬼町を中心とした山間集落の可能性を探り、文化的景観資源の保存と活用を考えることを目的として、男鬼楽座を立ち上げました。3年前からは、男鬼に残された茅葺き民家の屋根の葺き替え・差し茅を行っています。今年は屋根の打ちの一面と棟を、3年間かけてようやく葺き終えることができました。

屋根に使う茅は、多賀町保月・桃原、伊吹山の茅場で刈っています。現在日本では、茅場をはじめとする草原の環境・文化が失われつつあります。日本の草原は火入れや草を刈るなど人の手が入ることによって保たれてきましたが、人の手が入らなくなり、草原の植物・昆虫が急速に数を減らしています。また草原を利用する知恵や技も失われつつあります。茅を刈ることにより、草原の環境の活性化と茅刈りの技術の継承を目指しています。

撮影場所：①滋賀県犬上郡多賀町保月

②、③滋賀県彦根市男鬼

<講評>

かやぶき屋根の葺き替えは重労働で、ひとりではできません。みんなのチームワークがものをいいます。参加者の集合写真、作業の風景、山を背景にした葺き替えの場面、それらを組写真としてうまくまとめてくれました。自分も参加したくなるような喜びが伝わってきます。

（今森 光彦氏）

カメラ：Nikon D100

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【学校部門】

①



②



③



「虫たちと生きる」
京都大原学院（京都府京都市）
尾 崎 明日香
山 本 莉 帆

<メッセージ>

私たちは「虫たちと生きる」という写真をとりました。

1枚目の写真は、シマヘビの写真です。これはバスターミナルの道でとった写真です。このシマヘビは友達が見つけて、みんなでとっていました。私はシマヘビを見つけて「これはぶきみだなあ。」と思いました。

2枚目の写真は、ナガコガネグモです。三千院というお寺への道でとった写真です。このクモも、同じ友達が見つけました。クモの巣からとびのいた時はとてもびっくりしました。とても大きいクモだったので、「とても写真のとりがいがある。」と思いました。

3枚目の写真は、イチモンジセセリというチョウです。この写真は学校の畑でとりました。この町はオスがメスを追っかけて来たみたいで、そのしゅんかんを写真におさめました。私はこの写真をとった時、「すごいしゅんかんだ！！」と思いました。私はこのチョウが追っかけてこくはくのようなことをするのだから「見～つけた！！」というタイトルをつけてもいいと思います。

撮影場所：京都市左京区大原

<講評>

シマヘビが木の葉の中から顔を出している写真、ナガコガネグモが休んでいるところ、イチモンジセセリが求愛している場面。どれも、よく観察しているからこそ撮れた生態写真です。デジタルの時代になってから、カメラは作品を撮るだけでなく、鉛筆とノートの役目をもっています。

（今森 光彦氏）

カメラ：Canon Power Shot A460

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【学校部門】

①



②



③



「モンスター出現！！」
長野県木曽郡木祖村
木祖中学校 3 学年 (平成20年度)
(長野県木曽郡木祖村)
小林 晴 菜
牛 丸 京 香
柳 川 浩 司

<メッセージ>

長野県木曽郡木祖村にある「郷土の森・水木沢天然林」へ、地元木祖中学校3年生25名が、森林体験学習に行きました。

今日のテーマは「森の中の自然をよ〜く見て、目玉をつけることで、おもしろい写真を撮ってこよう」です。

グループごとに1枚の紙とマジックペンとカメラを持って出発しました。

初めはちょっととまどっていた生徒たちも、要領がわかると目を凝らして題材を探し、木や草や切り株、中には熊よけの鈴にまで目玉をつけてパチリ！

丸や三角目玉、ぱっちり目玉にニコニコ目玉、工夫して眉までつけ、何十ものモンスターが森の中に出現しました。

「先生そこに手を入れてみて」などとリクエストも出て、笑いの絶えなかった学年の行事は、中3の夏休みの忘れられない思い出になりました。

自然の仕組みや植物・生物の生態などの解説に重点が置かれがちな小・中学校の自然体験学習ですが、この日は、「目玉」という小道具を使うことにより、じっくり自然を見つめ、命ある友だちのように森を感じることができ、生徒達が郷土の森をいっそう身近に感じることができました。

撮影場所：長野県木曽郡木祖村木沢天然林

<講評>

なんともユーモアあふれる写真です。木に目玉をつけることは、撮影者のアイデアでしょうか。それによって、木に表情がでてくるから不思議です。遊び心をとおして、森への深い愛情が感じられるのがいいです。もう少したくさんの写真がみたいと思いました。

(今森 光彦氏)

カメラ：①、③ Canon IXY
② Sony Cyber Shot

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【学校部門】

①



②



③



「小さいのち」

広島県立庄原格致高等学校 写真部 C

(広島県庄原市)

城戸口 莉 菜

石 田 香 織

＜メッセージ＞

私たちは、里山に生きる小さな生き物にレンズを向けました。今回撮影した生き物たちは、普通に私たちが目にするものたちです。でも、マクロレンズを用い、猛接近して撮ろうとしてみると、普段撮影している人や風景とは違う感動や撮影の難しさがありました。

虫はピントを合わせていると、すぐ、ごちゃごちゃした日陰に跳んで行ってしまいます。かまきりは、こっちを向いてくれず、かたつむりは、いきをひそめて待っていてもなかなか角をだしてくれません。そのうち、陽はあっちへ逃げていくのです。でもこれらの写真は、ねばって出来るだけよい光を待って撮りました。

私たちは、いろいろと地域を走り回って、人や風景や人々の生活などを撮影しています。その中にもう一つ、マクロレンズを使って接近して視ると物がどう見えるかという観点を持ちたいと思っています。

撮影場所：①広島県庄原市

②、③広島県神石郡神石高原町

＜講評＞

獲物を狙うカマキリのポーズがとてもいいです。赤とんぼもカタツムリも、たいへんよく撮れています。作者はきっと生きものの好きなのでしょう。とにかくピントがいいので、みていて気持ちがいいです。生きもののポートレート写真のお手本のような写真です。

(今森 光彦氏)

カメラ：①、③Nikon D80

②Canon EOS Kiss

①



②



③



「^{ひわだ}檜皮採取養成研修」

公益社団法人
全国社寺等屋根工事技術保存会
(京都府京都市)

田 中 敬 二
友 井 辰 哉
大 野 浩 二

<メッセージ>

日本文化の特色である木造建造物文化財、特に構造の大きな社寺建築の場合、部分修理は50年毎、解体を伴う大規模な修理は100年毎に行う必要がありますが、その建築の屋根が「檜皮葺」と「柿葺」の場合は、約25年～35年ごとに吹き替えをしています。「檜皮葺」の資材である檜皮は、耐久力や保存力にすぐれ、古くから日本固有の特殊な方法で採取されます。木べら、振り縄（縄の両端に長さ40cm、太さ3cmほどの振り棒を結びつけたもの）、腰鉈などの道具を使い、100年以上に生長した檜を立木のまま、内樹皮を傷つけないよう外樹皮を剥ぎ取る方法です。檜皮を採取する技能者を「原皮師」と呼んでいます。私たち（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会では原皮師や社寺屋根工事技能者の養成研修及び文化財修理用資材確保を行っています。

原皮師の技術の中では、檜皮に触れるへらの使い方が最も重要で、へらの入れ方によって技術の優劣がわかるという意見も多く聞かれます。技術の向上については、経験が大事で上級者のやり方を見ることが効果的です。原皮師は採取の技術の経験だけでなく葺き易い皮がどのようなモノであるかを知るため葺く経験も必要であると言われていました。その点では同じ事業所内に葺師と原皮師が同籍していることがのぞましいかもしれません。

撮影場所：①山口県岩国市城山国有林

②、③長野県木曽郡南木曽町賤母国有林

<講評>

ヒノキの皮をはいている場面には、目を奪われます。実際に林業を体験したものだけが見ることができる珍しい場面です。集合写真の遠景、作業の環境、作業のアップなどを無駄なく組み合わせているので、その日の仕事の様子がよく理解できます。

(今森 光彦氏)

第一次審査通過作品【一般部門】

「和紙」
〈和紙のルーツ〉
ファミリー
(広島県神石郡
神石高原町)

①



②



③



Nikon D60

「越前の春」
小野ファミリー
(京都府京都市)

①



②



③



Fujifilm FinePix S8100 fd

「新緑の光の中で」
トヨタの森3
(愛知県豊田市)

①



②



③



①、②OLYMPUS E3
③ Panasonic LUMIX

「自然界に於ける
樹木のさま」
山の道
(大阪府大阪市)

①



②



③



Canon IXY Digital 510 IS

「里山の風景 五箇山」
(株) 森林テクニクス
Gチーム
(大阪府東大阪市)

①



②



③



Fujifilm FinePix V10

「森のクラゲたち」
田中ブラザーズ
(岐阜県郡上市)

①



②



③



Nikon

第一次審査通過作品【森林・林業活動部門】

「里山の悩み」
北都留森林組合
(長野県上野原市)

①



②



③



① Canon IXY Digital 500
② Fujifilm FinePix S1Pro
③ Konika Digital D3

「木育の実践」
～年輪を調べる～
もく(木)の会C
(大阪府大阪市)

①



②



③



Nikon D300

「野生を育む森からの
贈り物」
NPO 法人京都土の塾
(京都府京都市)

①



②



③



① Nikon P-6000
② Sony DSC-F77
③ Nikon D3

「森は偉大な芸術家」
NPO 法人木曽川・水の始発駅
(長野県木曽郡木祖村)

①



②



③



① Nikon D70
② OLYMPUS E-410
③ Sony Cyber shot DSC-P5

「京の七夕」
京都森林インストラクター会 A
(京都府京都市)

①



②



③



Canon

「初めての伐採体験！！」
オムロンの森（大正池）に
学ぶ仲間たち
(京都府木津川市)

①



②



③



Panasonic LUMIX

「丸木舟をつくって
森に遡（かえ）ろう」
NPO 法人芸術環境計画
(京都府八幡市)

①



②



③



①、③ Nikon D2X
② OLYMPUS C300Z

第一次審査通過作品【学校部門】

「深山の春」
兵庫県立山崎高等学校
写真部
(兵庫県中央市)

①



②



③



①、② PENTAX X70
③ Canon EOS 50D

「爽やかな森のいとなみ」
滋賀県立八幡商業高等学校
写真部 C
(滋賀県東近江市)

①



②



③



Fujifilm

「きれいな山 絶景満開」
長浜市立上草野小学校 D班
(滋賀県長浜市)

①



②



③



Canon IXY Digital 110 IS

「林業を学ぶ若者たち」
岡山県立勝間田高等学校
グリーン環境科
(岡山県勝田郡勝央町)

①



②



③



Canon PowerShot A590 IS

「とんぼたちの大切な自然」
京都大原学院
なかよしアカネ&サキ
(京都府京都市)

①



②



③



Canon PowerShot A460

「森のちいさな命」
広島県立庄原格致高等学校
写真部 D
(広島県庄原市)

①



②



③



① Canon EOS Kiss
② Canon 20D
③ Canon 30D

「ハス田」
広島県立庄原格致高等学校
写真部 E
(広島県庄原市)

①



②



③



①、② PENTAX
③ Canon 30D

ミニシンポジウム



田上山の荒廃と復旧の歴史

続いて、NPO自然と緑の齋藤兎三理事長より、自然大学を開校して15年を経過し修了生が750人になること、月一回の定例会を湖西・北小松の馬ヶ瀬山国有林と大阪市水道局の森で、水源を守るための活動をしている報告が行われた。そしてこれからも琵琶湖上流の森林整備に取り組むとともに、自然環境問題を学び、森林・林業の大切さ、必要性を理解する場を提供し、琵琶湖の環境保全、地球環境に感心を持ってもらうよう「自然大学」で学び、活動に取り組んでいくと述べられた。



2007年 伊崎国有林での地拵え

最後に、滋賀インストラクターの浅香剛会長より、60歳以上の方は薪等を生活に利用していた年代代と思う。退職等を機会にして、自然環境を上手く利用しながら守り続ける里山の活動に参加いただき、そこから得たものを自分の子どもとか孫に伝えたら凄い教育と技術の伝承ができ、日本の良さを伝えることになるのではないかと。森にお出でいただきたいと発言があり、この発言をミニ・シンポジウムの取りまとめとした。

コーディネータ

田中和博氏（京都府立大学教授）

パネリスト 浅香剛氏（滋賀インストラクター会長）

齋藤兎三氏（NPO自然と緑理事長）

御池吉道氏（ヒマラヤン・グリーンクラブ理事）

最初に滋賀インストラクターの浅香剛会長より一丈野国有林の活動について説明が行われ、森林を壊したらどうなるか、それを復元するとはどういうことか。

日本の森林・林業史上これほどの治山・植生復元の歴史的教訓を有する自然休養林は他に無い。日本一の森林再生の歴史的場所であると報告が行われた。



自然大学

ヒマラヤン・グリーンクラブの御池吉道理事より、パキスタン北東辺境地域の村々で、「ヒマラヤの緑を取り戻そう」という運動を1993年から進めてきているが、滋賀県近江八幡市の伊崎国有林でも活動をしている。

「着手した当時は、川鵜の糞でそこら中が木が枯れていた。先ず木を片付け、苗木を植えることから始めたのがこの土地なんです」と当時の様子について説明が行われた。

そして伊崎半島を一周する歩道の整備も出来是非来てくださいと述べられた。

最終審査会場：滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県草津市）



博物館正面



最終審査会場入口にて作品展示



表彰式

近畿農政局消費者の部屋（京都農林水産総合庁舎内）入選作品展示
【平成23年1月4日～28日】



京都中央郵便局展示ギャラリー（ＪＲ京都駅前）入選作品展示
【平成23年2月14日～28日】



平成22年度グループ対抗里山デジカメ選手権地域別応募者状況

都道府県	グループ名	都道府県	グループ名	都道府県	グループ名
東京都	中日本高速道路(株)八王子工事事務所	京都府	理想の森プロジェクト	大阪府	きんきちゅうごく森林づくりの会
	JUON NETWORK		京都森林インストラクター会		NPO法人もく(木)の会
山梨県	北都留森林組合		オムロン(株)		しおんじ山の会
長野県	NPO法人やまぼうし自然学校		京都ベレット町屋 ヒノコ	奈良県	家族
	NPO法人木曽川・水の始発駅		NPO法人芸術環境計画		森の案内人
	長野県木曽郡木祖村木祖中学3学年 (平成20年度)		全国社寺等屋根工事技術保存会		明治の森オクワガタ探検隊
愛知県	トヨタの森		杣人工房 香樹庵		NPO法人音楽の森
岐阜県	田中ブラザーズ		小野ファミリー	兵庫県	チーム森人
福井県	キイチゴ山を歩く会		里山を歩こう会		NPO法人日本森林ボランティア協会
	美山かぶと普及会		工房 杣太		兵庫県立山崎高等学校 職員他
滋賀県	杣人研究会		京都府立北桑田高等学校		兵庫県立山崎高等学校 写真部
	滋賀県立大学 男鬼楽座	大阪府	京都大原学院	和歌山県	熊野百聞溪谷自然学校
	滋賀森林インストラクター会		山の道	岡山県	千年の森つくりグループ
	滋賀県立八幡商業高等学校 写真部		岩湧の森		新見市唐松ホテル同好会
	長浜市立上草野小学校		(株)森林テクニクス		岡山県立勝間田高等学校グリーン環境科
京都府	京都女子大学 生命環境研究会		親子チーム	広島県	ファミリー
	NPO法人京都土の塾		積水ハウス(株)環境推進部		広島県立庄原格致高等学校 写真部
			NPO法人日本森林ボランティア協会	沖縄県	於茂登岳

林野庁長官賞

琵琶湖博物館長賞

近畿中国森林管理局長賞

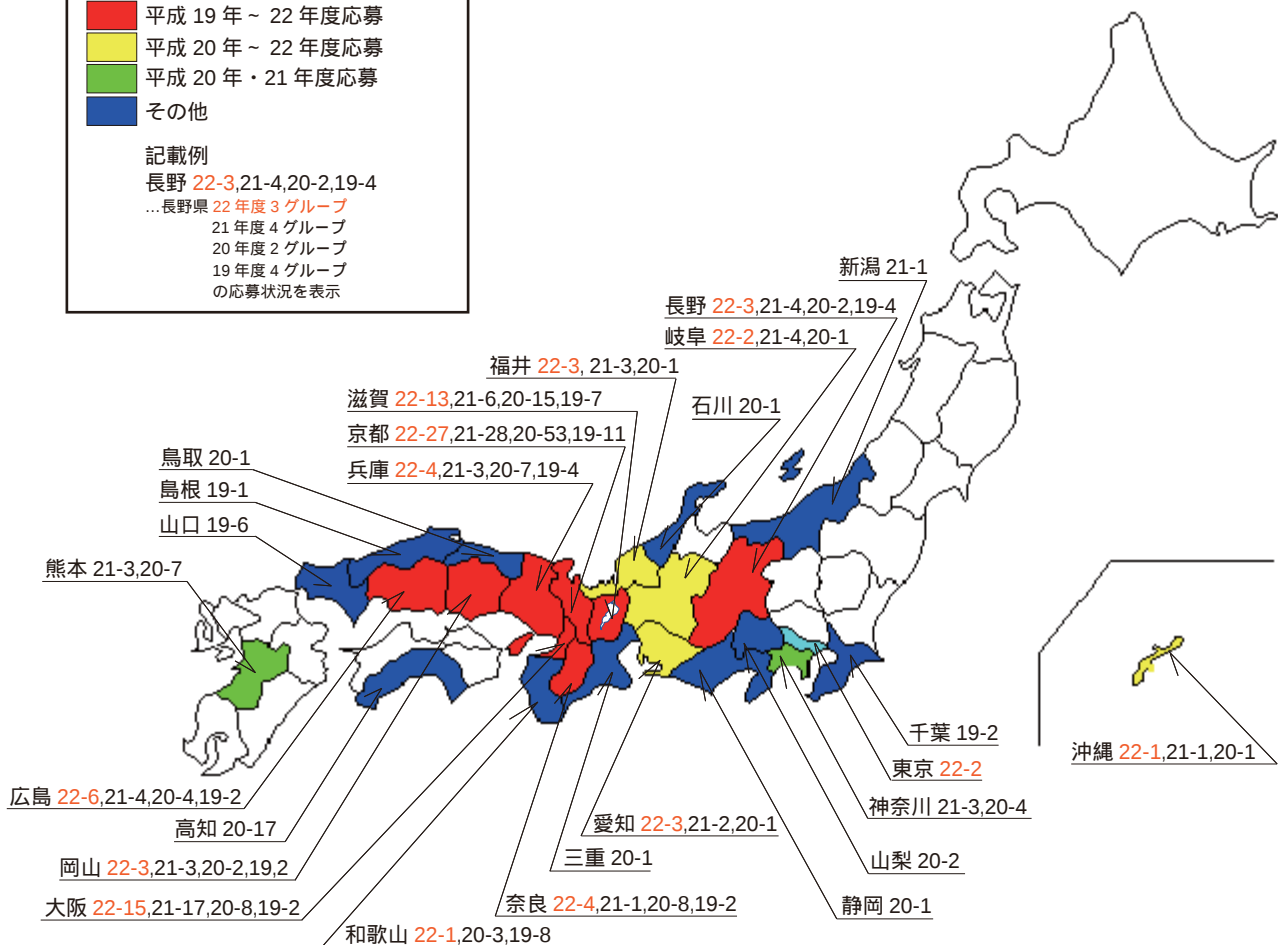
審査員特別賞

一次審査通過作品

凡例

- 平成22年度応募
- 平成19年～22年度応募
- 平成20年～22年度応募
- 平成20年・21年度応募
- その他

記載例
 長野 22-3,21-4,20-2,19-4
 ...長野県 22年度3グループ
 21年度4グループ
 20年度2グループ
 19年度4グループ
 の応募状況を表示



応募票(切り取ってご使用ください)

写真

3枚1組の タイトル			
代 表 者 住 所	〒		
ふりがな 氏 名 年 齢	[1]グループ代表者		オ
	[2]	オ	[3] オ
代 表 者 連 絡 先	TEL: FAX: e-mail:		
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日:		
写 真 デ ー タ	写真番号: カメラ機種: 撮影画素数:		
この募集をどこで知 りましたか? (○で囲ってください)	1 ホームページ 2 新聞 3 ラジオ 4 知人等 5 学校 6 知っていた 7 その他 ()		

写真

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日:		
写 真 デ ー タ	写真番号: カメラ機種: 撮影画素数:		

写真

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日:		
写 真 デ ー タ	写真番号: カメラ機種: 撮影画素数:		



平成 23 年 (2011 年) 3 月発行

平成 22 年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」

編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒 530-0042 大阪市北区天満橋一丁目 8 番 7 5 号

近畿中国森林管理局内

TEL: 0 6 - 6 8 8 1 - 2 0 1 3

FAX: 0 6 - 6 8 8 1 - 2 0 5 5

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

平成 23 年 4 月より上記住所に事務所を移転いたします。